



“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No. 17 〈思い込み〉

タイトル：類似作業にひそむ落とし穴

【事例】

機器の点検担当者は、点検のための作業手順を作成するにあたり、同じ機器の過去の類似点検の実績を参考にして、作業手順を作成しました。しかし、上司に「過去の点検時の作業環境と現在の作業環境が同じだとは限らない」と指摘されたため、過去の点検時の作業環境と現在の作業環境の違いを調べてみると、プラントの運転状態が異なることが分かり、現在の環境に合った手順を作成することが出来ました。

【ヒューマンファクターの視点から】

人は、過去に成功した実績があると、過去と同様の手順を踏めば同様の結果（成功）が得られると考えがちです。この時、同様の手順を踏むこと（または手順を踏めることを確認すること）にのみ注意が集中してしまうため、周囲で起こる小さな変化に気がつくにくくなります。本ポスターの事例では、過去に同じ機器の点検実績があったため、作業手順の確認にのみ注意が集中し、作業環境の相違を見逃してしまいました。「実績」の不用意な流用は、深い検討を阻害しがちです。

実際に作業を実施する時には、過去の経験や実績を基に作業計画を立てることは多くあると思います。しかし、「条件が完全に同じ作業」はありません。機器の設置位置、電源構成、インターロック、プラントの運転状態が異なるなど、違いが生じる可能性は常にあります。目に見えない電源やインターロックについては特に注意が必要です。過去の経験や実績を盲信せずに作業環境等の違いを丁寧に確認することが重要です。

作業条件や環境は常に変化しているので、過去との違いを確認して影響範囲を明確にしましょう。

以上